

単元名

「1けたをかけるかけ算の筆算」

第3学年

1 単元の目標

- (1) 2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解できる。また、その筆算の仕方について理解することができる。(知識及び技能)
- (2) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 乗法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解できる。また、その筆算の仕方について理解している。 ② 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いている。	① 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。	① 乗法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。

3 指導と評価の計画（全12時間）

時間	学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・ $10 \times$ （1位数）の計算の復習 ・ 単元の学習課題の確認 ・ $(\text{何十} \cdot \text{何百}) \times$ （1位数）の計算のしかたについて考える。 ・ $(\text{何十} \cdot \text{何百}) \times$ （1位数）の計算で、繰り上がりがある場合について考える。		①（ノート・観察・発言）	
2	・ $(2\text{位数}) \times$ （1位数）の立式と計算の仕方について考える。 ・ $(2\text{位数}) \times$ （1位数）の計算で、繰り上がりがある場合について考える。		①（ノート・観察・発言）	
3	・ $(2\text{位数}) \times$ （1位数）で繰り上がりのない筆算の仕方について考える。	①（ノート・観察）		

○ A 子どもが「自分たちで学び取る」授業
 ・ 単元で身に付けたい力を児童と共有し、単元のゴールの姿をイメージする。

4	・(2位数) × (1位数) で一の位に繰り上がりのある筆算の仕方について考える。	①(ノート・観察)		
5	・(2位数) × (1位数) で十の位に繰り上がりのある筆算の仕方について考える。	②(ノート・観察)		
6 本時	・(2位数) × (1位数) で一の位と十の位に繰り上がりのある筆算の仕方について考える。		①(ノート・観察・発言)	
7	・練習問題に取り組む。	②(ノート・観察)		
8	・(3位数) × (1位数) で繰り上がりのない筆算の仕方について考える。	①(ノート・観察)		
9	・(3位数) × (1位数) で繰り上がりのある筆算の仕方について考える。 ・(3位数) × (1位数) で空位がある場合の筆算の仕方について考える。		①(ノート・観察・発言)	
10	・(2位数) × (1位数) の暗算の仕方について考える。		①(ノート・観察・発言)	
11	・学びのまとめに取り組む。	②(ノート・観察)		
12	・生活場面に即した問題に取り組む。			①(ノート・発言・観察)

○ B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

・生活場面に合わせた問題（買い物や料理の材料など）を設定して解いたり、自分で問題を考えたりすることで必要感を感じられるようにする。

4 本時案（6／12）

(1) 本時の目標

- ・(2位数) × (1位数) で一の位と十の位に繰り上がりのある筆算の仕方について考えることができる。

(2) 本時の展開

時	○学習活動 ・児童の反応	◇留意点 ☆評価
導入	○前時の学習を振り返る。 ・十の位に繰り上がりがあるときは、百の位に繰り上げた数を書く。 ○問題を読み、今までの学習と違うところを考える。 ・今までは繰り上がりが1回だった。 ・今回は一の位も十の位も繰り上がりそうだ。 課題：繰り上がりが2回あるとき、どのように筆算すればよいのだろうか。 ○見通しをもつ。 ・一の位と十の位に分けて計算する。 ・百の位に繰り上げた数を書けばいいのでは。	◇繰り上がりの回数に着目して、前時との違いに気付けるようにする。

